試作開発
＋
設備投資

事業計画名　ハイテクとローテクの融合により伝統的製法を可能とした理美容鋏の試作開発

既存製品比1.6倍の強度を持ち、耐久性に優れた製品を開発。安価な外国製との差別化をめざす。

概要　海外メーカーとの競争が激化する中、他社の手がけていない高付加価値品の開発に活路を見出し、独自の製法を考案。マシニングセンターによる高精度な切削加工技術と、伝統的な「打ち刃物」の製法を組み合わせ開発した理美容はさみは、既存製品と比べ約1.6倍の高強度を有する。

株式会社ミュウ
代表取締役　堀　博明
岐阜県関市小瀬2654-1
TEL0575-21-2286
e-mail：hori@myu-co.jp

代表取締役
堀　博明

企業概要

はさみメーカーで働いていた堀博明氏が、2000年に独立したのが会社の成り立ち。創業時より、実父が営む刃物溶接加工工場と連携して理美容はさみづくりに取り組み、2007年にその一貫生産体制を構築した。事業のメインは大手メーカーのOEMだが、自社ブランドも展開。時流に対応した企画に注力し、海外生産品にはない使い心地と意匠性を備えたこだわりの製品を市場に送り出している。

本事業への取組の経緯

刃物産業が盛んな関市で2007年に設立されたミュウ。従業員10人の小所帯ながら、「理美容はさみ」のOEM製造で存在感を示すものづくり企業だ。

同社の製品は、鋭い切れ味が長持ちするのが特徴。そのうえ、デザイン性が高く、ラインナップも豊富なことから、道具にこだわりを持つ理容師や美容師にファンが多い。評判は海の向こうにも広がり、アメリカやヨーロッパなどにも輸出されている。

しかし近年、中国や韓国をはじめとする海外メーカーの台頭で、安価な製品が市場に大量に出回るようになり、競争が激化。本来、高品質なはさみ作りには多くの熟練した加工技術が必要だが、構造自体は単純であるため、模倣されやすい。同社では、海外生産品と不毛な価格競争を繰り広げるのではなく、これまでの技術の集積を基盤としながら一層の高付加価値化を図ることが必要と考え、本事業を活用して独創的な製品の開発に取り組むこととした。

デザインやサイズのバリエーション豊富な製品を一貫管理体制で生産している（写真は製品一例）。

事業概要

同社が本事業に取り組むにあたって着目したのが「打ち刃物」。打ち刃物とは日本古来の伝統的な刃物で、炉で熱した鋼材をハンマーで素早くたたく鍛造により、独特の強度と粘りを持った製品に仕上げられる。一般的に、はさみの製造では用いられない技法だが、はさみ材料のステンレス鋼にも有効であるという仮説を立て、炉とスプリングハンマー（鍛造機）を導入。多くの試作品を作り、検証を行った。

また、刃物の切削精度を向上させるため、マシニングセンターも導入。ライバル社が容易に模倣できないような意匠性を追求した。

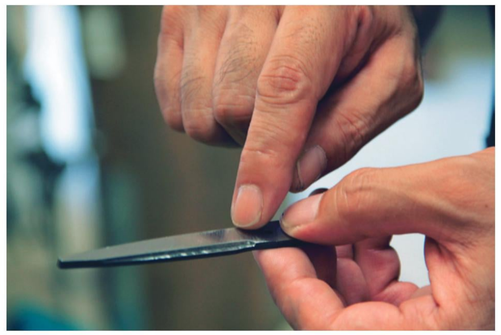
加熱した炉でステンレス鋼材を焼き、スプリングハンマーで鍛造する独自のはさみ製法は、「打ち刃物」にヒントを得たもの。

高い切削精度とデザイン性を実現するため導入したマシニングセンター

数多くの試作品による試行錯誤を繰り返した。

事業成果

炉の温度や鋼材の焼き入れ時間、ハンマーの加圧力などを工夫して作り上げた独自製法の理美容はさみは、切れ味耐久試験（紙束の切断枚数を切れ味と定義して評価を行う方法。刃物業界で広く採用されている）の結果、既存製品比1.6倍の強度が確認された。さらにマシニングセンターの活用によって、刃の部分に段落ちモールド加工（エッジを直角に切削し、階段状に仕上げる加工）や微細穴加工などを施す技術も確立。デザインのバリエーションが広がった。


マシニングセンターによって段落ちモールド加工を施した製品

成果の活用状況
（補助事業実施後の取り組み）

本事業で開発に成功した既存製品比1.6倍の強度を持つ理美容はさみは、さらなる耐久性向上をめざし、岐阜大学の土屋能成特任教授との間で表面処理・加工技術の共同研究が進行中だ。同社は研究成果が出次第、製品化したいとしている。

ただし、理美容はさみはもともとニッチ製品のため、少子高齢化や人口減少が進む国内市場だけで成長戦略を描くことは難しくなってきている。一方、海外市場に目を向けると、高価格帯の日本製品はそれほど普及していない。そこで同社は今後、製品化にあたって、外見からも差別化をアピールしやすいダマスカス鋼材（異種のステンレス鋼材を積層鍛造して表面に複雑な縞模様を浮かび上がらせたもの）のラインナップを強化し、海外販路の拡大を図っていく方針だ。